



「自然との共存」

九州産業大学附属九州高等学校2年 いまきるい 猪迫楼依さん

生物多様性表紙絵コンクール最優秀賞

「自然との共存」 九州産業大学附属九州高等学校 2年 猪迫楼依さん

作者からのメッセージ：

背景にビルの群れを描き、その土台が土から水へ変わっていく様子を描きました。
ビル群の中心に大きな木を描くことで、自然との共存を表現しようと思いました。

生物多様性表紙絵コンクールの実施について

「生物多様性」は、一般にはまだあまり認知されておらず、イメージの難しい言葉です。

「生物多様性」を視覚的に訴え、また、将来を担う若者世代からのメッセージを発信するため、県内の高校生を対象に「生物多様性表紙絵コンクール」を実施し、応募総数 111 点の中から入賞作品を決定しました。

最優秀作品には、伝わりやすいデザインとメッセージ性を備えた猪迫楼依さんの「自然との共存」が選ばれました。

本戦略の各章扉絵に、各入賞作品を掲載しています。

※ 記載されている学年は、全て応募当時（平成 24 年度）のものです。

はじめに

福岡県は、県民一人一人が幸福を実感できる「県民幸福度日本一」を目指し、県民生活の「安定」「安全」「安心」を向上させ、将来に夢や希望が持てる社会を構築していくこととしています。それには、地域の持つポテンシャルを最大限に引き出し、伸ばしていくことが重要です。



本県は、筑前海、有明海、豊前海の3つの海に囲まれ、英彦山や脊振山などの山々、福岡平野や筑後平野などの平地、遠賀川や筑後川などの河川があり、多様で変化に富む地勢の中で、多種多様な生きものが「つながり」を持って生息・生育しています。

生物は、食糧や医薬品、衣料、居住の材料、紙など、私たちに利便をもたらし、また、多様な生物により構成される生態系は農地の病害虫発生抑制や土砂災害防止などに役立っています。

私たちの暮らしは、このような生物多様性の恵みの上に成り立っており、これらの恵みを将来にわたって享受できる社会を創っていくことが必要です。

県では、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、県民の皆さまや有識者の意見をいただきながら、「福岡県生物多様性戦略」を策定しました。

この戦略では、「生きものを支え、生きものに支えられる幸せを共感できる社会」を将来像としています。この社会を実現するためには、行政はもとより、住民、NPOや事業者などの多様な主体が、お互いに連携・協働して取り組んでいくことが大切です。

皆さまと生物多様性に関する認識を共有し、皆さまとともに自然と共生する社会づくりに取り組んでまいりますので、ご理解とご協力をお願いします。

平成25年3月

福岡県知事 小川 洋

知っていますか？福岡県の豊かな自然とその恵み

【 3つの海 】



豊前海の干潟（今川河口付近）

福岡県は、豊前海、筑前海、有明海の3つの海に面しており、それぞれ特徴的な生きものがすんでいます。例えば有明海には、国内でここだけにしかすんでいないムツゴロウなどの生きものが多数みられます。

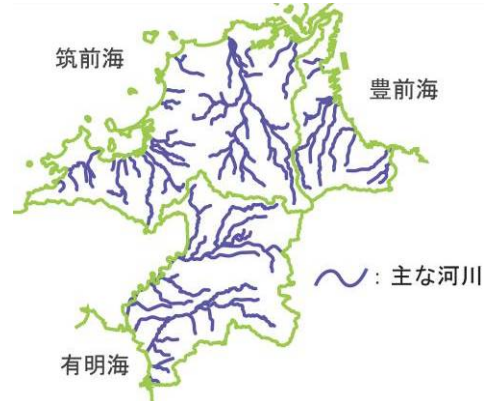
【 各地域の山々 】



英彦山

県内には、各地域にそれぞれ標高 1000 m 級の山々が存在し、ブナ林などがみられます。一方、標高の低い地域には広く照葉樹林がみられるなど、多様な森林が育まれています。

【 三方に流れる個性的な川 】



福岡県では、大小様々なたくさんの河川が 3 つの海にそれぞれ流れ込んでいます。広大な平野を形成する筑後川をはじめ、矢部川、遠賀川、今川、室見川など、各地域に個性的な河川がみられます。

【 都市の自然 】



紫川（北九州市）

県内には、福岡市や北九州市などの大都市がありますが、そのようなところにも身近に豊かな自然がみられます。

【 農村の自然 】



筑後平野の農村風景

福岡県を含む九州北部は日本列島で最も早く水田での稲作が始まった地域です。農地とそれを取り囲む人手の加わった自然は、様々な生きものが暮らす場所としても重要です。

【 豊かな海の幸 】



福岡県の海の幸

3つの海はそれぞれ豊かな海の幸を私たちにもたらしてくれます。豊前海ではガザミ、筑前海ではトラフグ、有明海ではワラスボなど、各地域でそれぞれ特徴的な海の幸に出会えます。

【 山のレクリエーション 】



ハイキングを楽しむ人々

身近なところに山がみられる福岡県では、山は森林浴、狩猟、山菜採り、昆虫採集など様々な楽しみをもたらしてくれる場所としてよく利用されています。

【 子どもの遊び場となる川 】



川で遊ぶ子どもたち

様々な生きものがすむ川や水路は、子どもたちが遊ぶ場所としても重要です。魚とりや昆虫採集、水遊びなど、思い思いに楽しめます。

【 都市での生きものとのふれあい 】



室見川河口での潮干狩り（福岡市）

身近に豊かな自然がみられる県内の都市では、潮干狩り、釣り、バードウォッチング、昆虫採集など、都市の中で様々なかたちで生きものとふれあうことができます。

【 豊かな農のめぐみ 】



五穀豊穰を祈る祭り（福津市）

福岡県では様々な農産物の生産が盛んですが、農業は、これらの農産物のほか、身近にふれあうことのできる様々な生きもの、祭りなどの文化を育むなど、多様な恵みをもたらしてくれます。

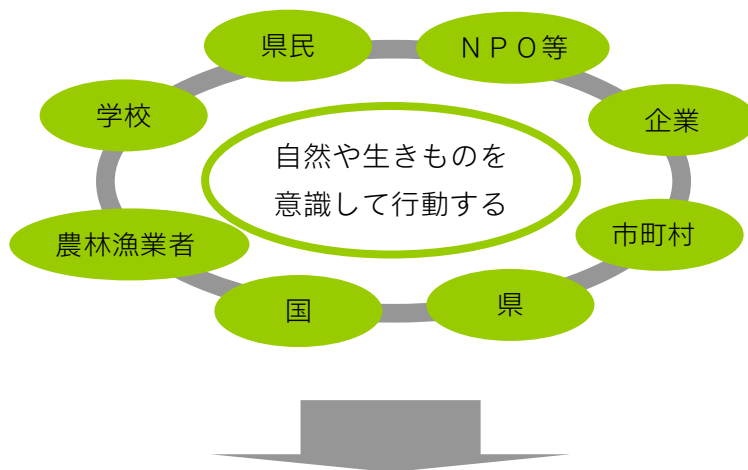
しかし…

- 私たちの暮らしは自然との関わりが少なくなり、これらの恵みが何からもたらされるのかを意識する機会が少なくなっています。
- 今、私たちが気付かないうちに、自然が失われ、多くの生きものたちが姿を消しつつあります。
- このままでは、私たちも、未来の子どもたちも、自然の恵みを得ることはできなくなります。

私たちは、自然とその恵みを将来に引き継ぐため、今、行動を起こす必要があります

福岡県生物多様性戦略

- 豊かな自然や生きものたちを守るための今後5年間の行動計画
- 自然へ影響を与える者、自然の恩恵を受ける者、直接関係ないけれど間接的に自然とつながっている者など、あらゆる立場の人々が、自然や生きものを意識し、行動につながる施策メニュー



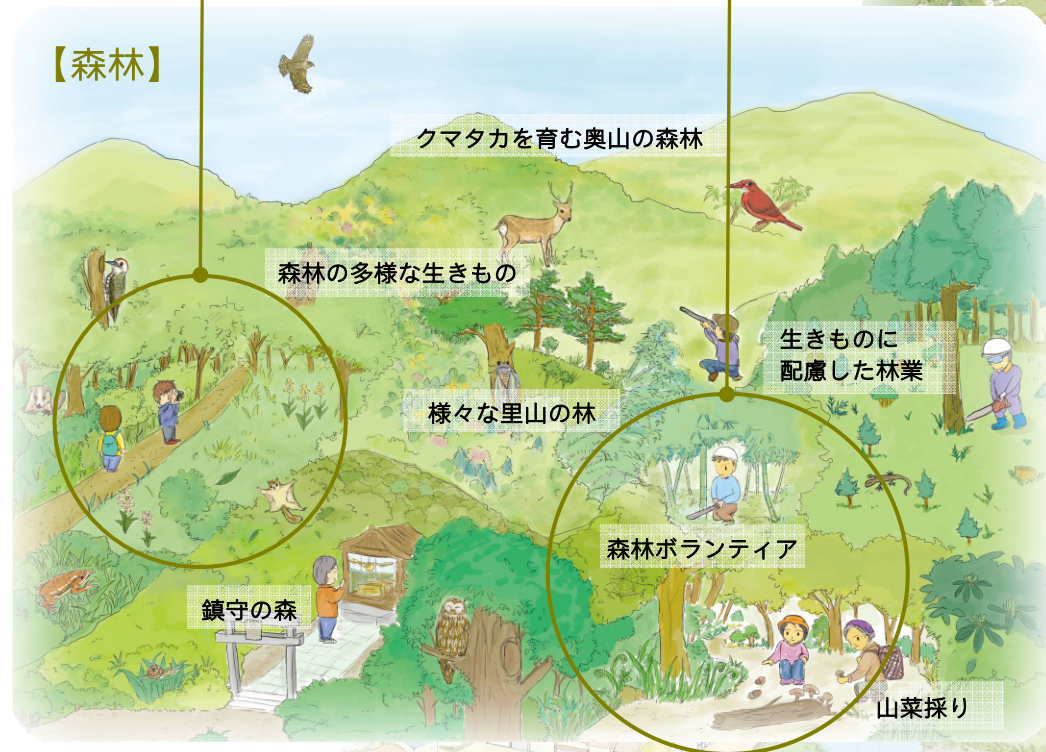
社会全体で自然を再生する
息の長い取組

持続可能な社会づくりを
加速

未来の福岡県では、自然と共生した持続可能な社会が実現しています。

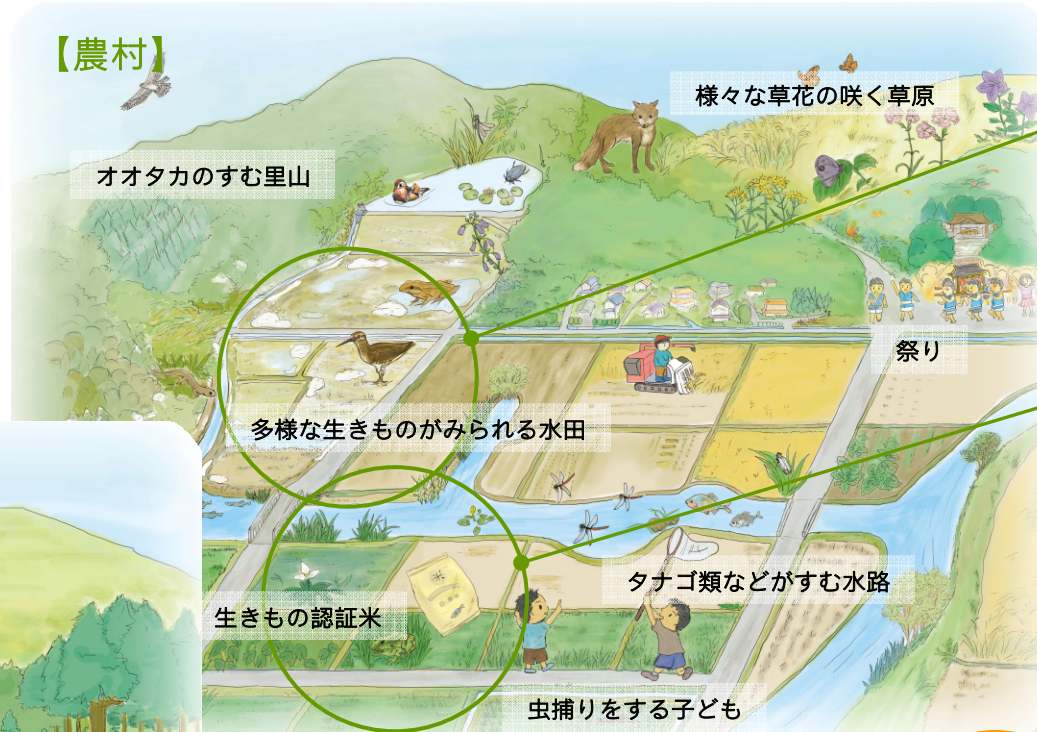
エビネ、キンラン、ムササビ、ヒキガエルなど、様々な生きものを身近に見ることができるようになっています。

【森林】



森林から恩恵を受ける都市の住民など、多様な人々が森林整備に参加しています。また、豊かな山の恵みを人々が楽しんでます。

【農村】



環境に配慮した農業や農地整備によって、水田には、トンボやカエル、ドジョウなど様々な生きものが戻っています。

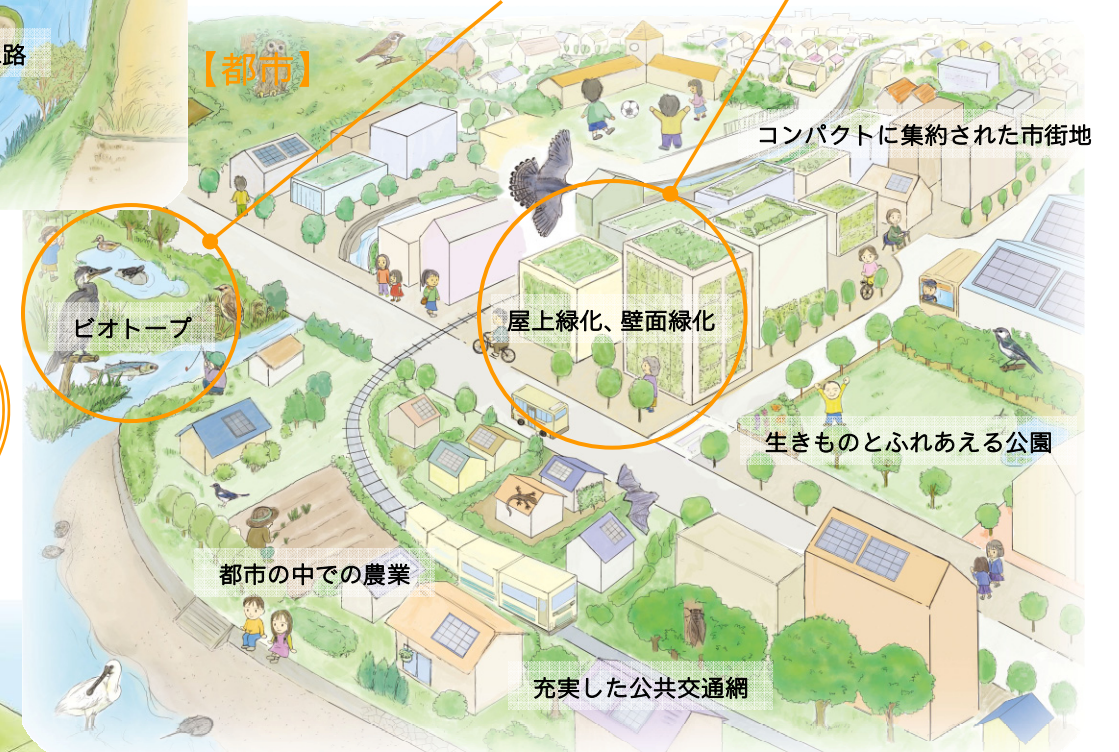
生物多様性を育む付加価値の高い作物が収穫されています。

生きものに配慮した公園やビオトープが造られ、多様な生きものがみられる場所になっています。

屋上や壁が緑化された建物が多くなっています。緑に覆われた都市は様々な生きものすみかとなっています。

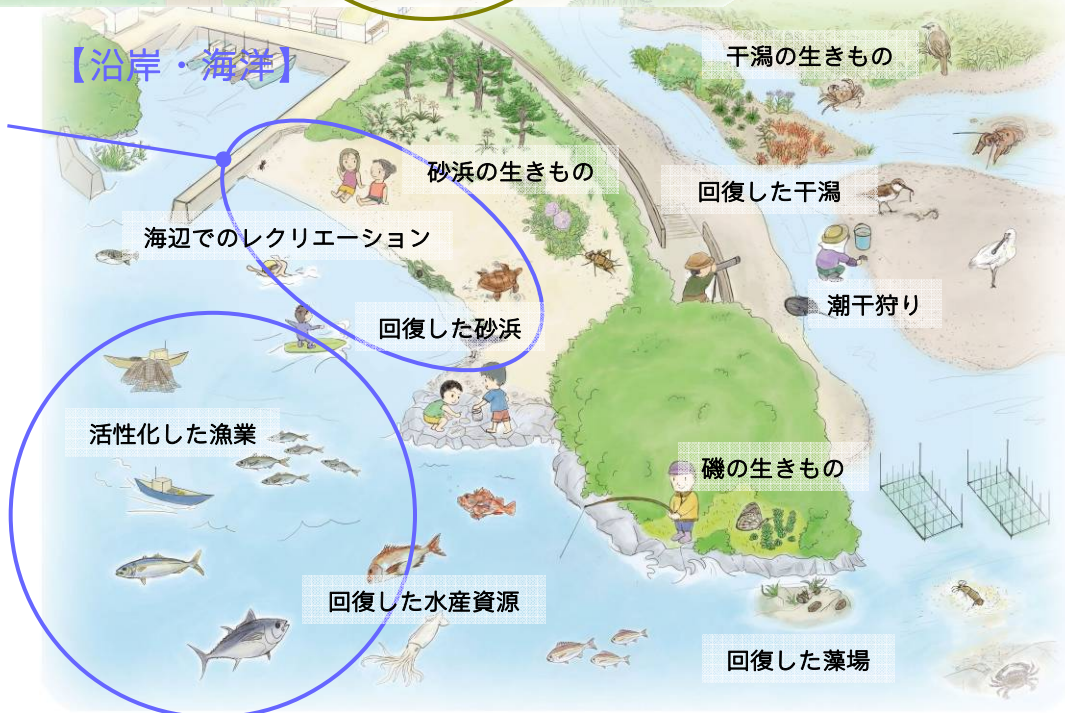
生きものを支え、
生きものに支えられる
幸せを共感できる社会

【都市】



海岸侵食でやせ細っていた砂浜は回復し、海浜の植物群落が美しい姿を取り戻しています。

【沿岸・海洋】



藻場や干潟、海底の環境が改善し、海の生きものも増えています。漁業も活性化し、身近な海の幸により、食卓がより豊かになっています。

【河川・湿原】



堰には魚がのぼりやすい魚道が整備され、生きものが行き来できるようになっています。

様々な生きものが戻ってきた川では、多くの人々が川遊びを楽しんでいます。

目次

| | |
|--------------------------|-----|
| 第1章 戦略策定にあたって | 1 |
| 1. 生きものに支えられる私たちの暮らし | 2 |
| 2. 生物多様性とは | 4 |
| 3. 策定の背景 | 6 |
| 4. 生物多様性をめぐる国内外の動向 | 7 |
| 5. 戦略の基本的事項 | 10 |
| 第2章 生物多様性の現状と課題 | 13 |
| 1. 福岡県の生物多様性の特徴とそれを支える背景 | 14 |
| (1) 生物の生息・生育環境の基盤 | 14 |
| (2) 福岡県の生物多様性の特徴 | 21 |
| (3) 人と自然の関わりの歴史 | 26 |
| 2. 生物多様性の現状と課題 | 30 |
| (1) 県内の絶滅危惧種の状況 | 30 |
| (2) 生態系別の現状と課題 | 32 |
| (3) 人づくり・仕組みづくりの現状と課題 | 54 |
| 第3章 目指す社会と目標 | 60 |
| 1. 目指す社会（2050年に実現すること） | 61 |
| 2. 目指す社会のイメージ | 62 |
| (1) 2050年の人々のくらしや社会のようす | 62 |
| (2) 2050年の各地域のイメージ | 63 |
| 3. 行動目標（10年間に達成すること） | 73 |
| 第4章 行動計画 | 76 |
| 1. 私たちの暮らしのなかで生物多様性を育みます | 80 |
| (1) 県民への普及啓発 | 80 |
| (2) 教育・学習の機会を活用した啓発 | 81 |
| (3) 自然とのふれあいの推進 | 83 |
| (4) 生物多様性に配慮したライフスタイルの浸透 | 86 |
| 2. 生物多様性の保全と再生を図ります | 87 |
| (1) 生態系ネットワークの形成 | 87 |
| (2) 重要地域の保全 | 89 |
| (3) 野生生物の適切な保護と管理 | 94 |
| (4) 地球温暖化対策との連携 | 98 |
| (5) 環境影響評価制度の充実・強化 | 99 |
| (6) 生物多様性に配慮した公共工事の推進 | 100 |
| 3. 生物多様性の持続可能な利用を図ります | 111 |
| (1) 生物多様性に配慮した農林水産業の推進 | 111 |
| (2) 里地里山里海の適切な利用と管理 | 116 |

| | |
|-----------------------------|-----|
| 4. 生物多様性を支える基盤とネットワークを構築します | 120 |
| (1) 行政施策への浸透 | 120 |
| (2) 多様な主体の参画促進 | 121 |
| (3) 連携促進によるネットワーク化 | 123 |
| (4) 人材育成と活用 | 125 |
| (5) 調査研究の推進 | 125 |
| 第5章 推進体制と進行管理 | 128 |
| 1. 推進体制 | 129 |
| 2. 進行管理 | 133 |
| 3. 指標 | 135 |

資料編

| | |
|-------------------------|-----|
| 1. 福岡県生物多様性戦略策定の経緯及び体制等 | 資 1 |
| 2. 県民の意向把握 | 資 3 |
| 3. 戦略推進に際して参考となるその他の指標 | 資 8 |
| 4. 用語解説 | 資 9 |

コラム

| | |
|---------------------------------|-----|
| 1. 有明海特産種・エツが育む文化 | 3 |
| 2. 消える農作物の地方品種 | 5 |
| 3. 地域の取組と国際的な枠組み | 8 |
| 4. 地域座談会の開催－県民とともに作った生物多様性戦略－ | 12 |
| 5. 石灰岩地の生きもの | 15 |
| 6. 本戦略における福岡県現存植生図の活用 | 20 |
| 7. よみがえった洞海湾 | 28 |
| 8. クリークの「ごみ上げ」 | 37 |
| 9. 福岡県の地史と河川の生きもの | 42 |
| 10. ニッポンバラタナゴとタイリクバラタナゴ | 50 |
| 11. 水辺教室 | 85 |
| 12. 生態系ネットワークの形成 | 88 |
| 13. 民俗や文化の基盤となる生物多様性－沖ノ島の生物多様性－ | 92 |
| 14. 生物多様性の「非利用価値」 | 93 |
| 15. 福岡県内のニホンザル | 96 |
| 16. 配慮工法により保全された絶滅危惧種アサザ | 104 |
| 17. 上西郷川の多自然川づくり | 107 |
| 18. オニバス再生プロジェクト | 121 |
| 19. 交流の場づくり | 124 |
| 20. 人工林の広葉樹林化予測モデルの開発 | 126 |